

学習障害

LD

Cさんの例



会議で大事なことを忘れまいとメモをとるのだけれど、本当は書くことが苦手なので、書くことに集中しようと気を取られて、かえって会議の内容が分からなくなることがあります。

後で会議の内容を周りの人に聞くので、頑張っているのに周りの人には、「もっと要領良く、メモを取ればいいのに」と言われてしまいます。

でも、苦手なことを少しでも楽にできるように、ボイスレコーダーを使いこなしたり、他の方法を取り入れる工夫をすることができます。

(ここにあげたのは学習障害の人の特性の一例で、他にも様々なタイプの特性があります。また、上記の特性だけをもちて学習障害と断定されるものではありません。)

*学習障害(LD)は、全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることに著しい困難がある状態をいいます。その主な例が下記の3つです。

- ① 読字障害・特異的読字障害(音と文字の繋がりを理解することや文字の視覚認知に障害があり、読むのが極端に苦手です。)
- ② 書字表出障害・特異的綴字(書字)能力障害(読字障害と重なっていることが多いのですが、視覚認知に障害があり、書くことが極端に苦手です。)
- ③ 算数障害・特異的算数障害(数字の認識や算数の基本となる概念を理解すること等が困難であるため、計算を行ったりすること等が極端に苦手です。)

注意欠陥多動性障害

ADHD

Dさんの例

大切な仕事の予定をよく忘れたり、大切な書類を置き忘れてしまったりしてしまいます。周りの人にはあきれられ、「何回言っても忘れてしまう人」と言われてしまいます。

でも、気配り名人で、困っている人がいれば誰よりも早く気づいて手助けすることができます。

(ここにあげたのは注意欠陥多動性障害の人の特性の一例で、他にも様々なタイプの特性があります。また、上記の特性だけをもちて注意欠陥多動性障害と断定されるものではありません。)

*注意欠陥多動性障害は、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力及び衝動性、多動性を特徴とする障害です。この3つの症状は通常7歳以前に現れます。

- ① 多動性(おしゃべりが止まらなかつたり、待つことが苦手でうろろしてしまったりすることがあります。)
 - ② 注意力散漫(うっかりして同じ間違いを繰り返してしてしまうことがあります。)
 - ③ 衝動性(約束や決まり事を守れないことや、せっかちでいららしてしまうことがよくあります)
- 一般的に多動や不注意といった様子が目立つのは学齢期ですが、思春期以降はこういった症状が目立たなくなるともいわれています。

